BE SUSTAINABLE

マスタープラン
2022-2025

島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会

百年後、千年後、私たちが暮らす地域はどんな地域だろうか。

現在暮らす人々だけでなく、百年後、千年後の人々も

自分たちが暮らす地域に誇りを感じ、自らの夢に挑戦できる地域。

地球資源の持続的な利用や自然災害の影響軽減、気候変動の影響緩和などの社会が抱える重要課題への意識と理解を高め持続的に発展する地域。

島根半島・宍道湖中海ジオパークでは、このような地域にするために

ここに暮らす人々と互いに力をあわせ、意見を出し合い

未来を切り拓いていきます。

マスタープランとは

島根半島・宍道湖中海ジオパークマスタープランは、ユネスコ世界ジオパークの理念に基づいて活動を行う島根半島・宍道湖中海ジオパークの目指す地域像を明らかにし、取り組みの方向性を示すものです。

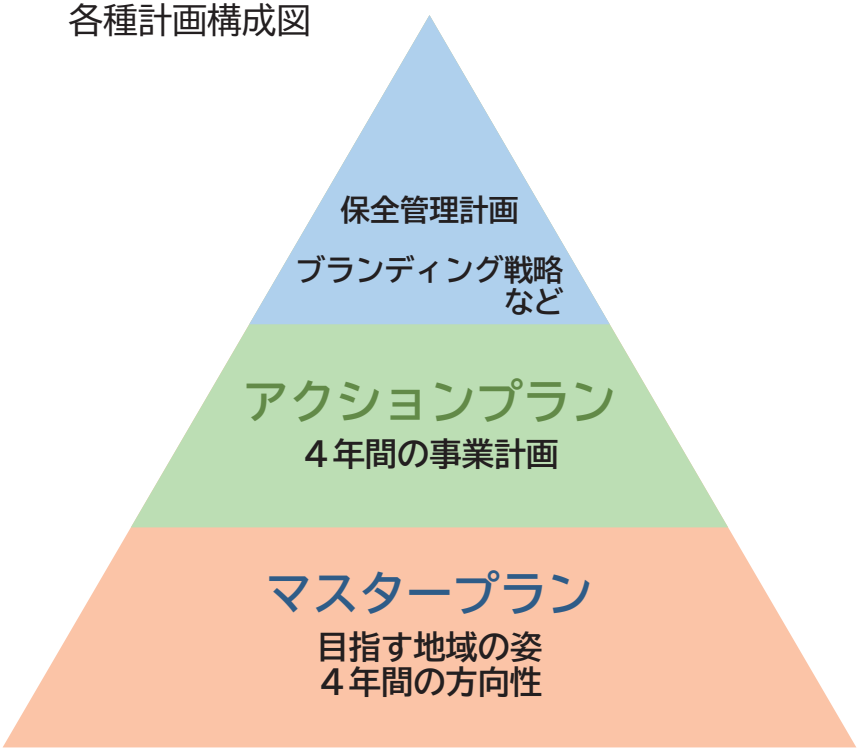
本マスタープランの期間は2022（令和4）年度から2025（令和7）年度までの4年間とし、ユネスコ世界ジオパークを取り巻く状況や社会情勢の変化等を踏まえ、ジオパークのエリアを構成する自治体の総合計画等との関連を考慮しながら、4年ごとに見直しを行うこととします。

本マスタープランの推進を図るための具体的な取り組みは、島根半島・宍道湖中海ジオパークアクションプランにより定めるほか、アクションプランに基づき、保全管理計画や持続可能な開発戦略、ブランディング戦略、パートナーシップ戦略などを策定・推進することで、ジオパーク活動の更なる質的向上を目指します。

各種計画の構成について説明するぞ！

©DLE

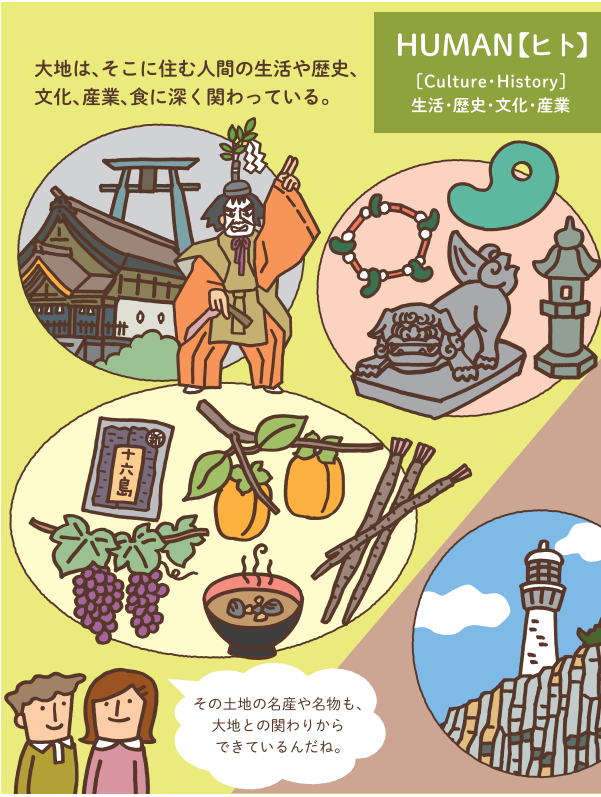
各種計画構成図

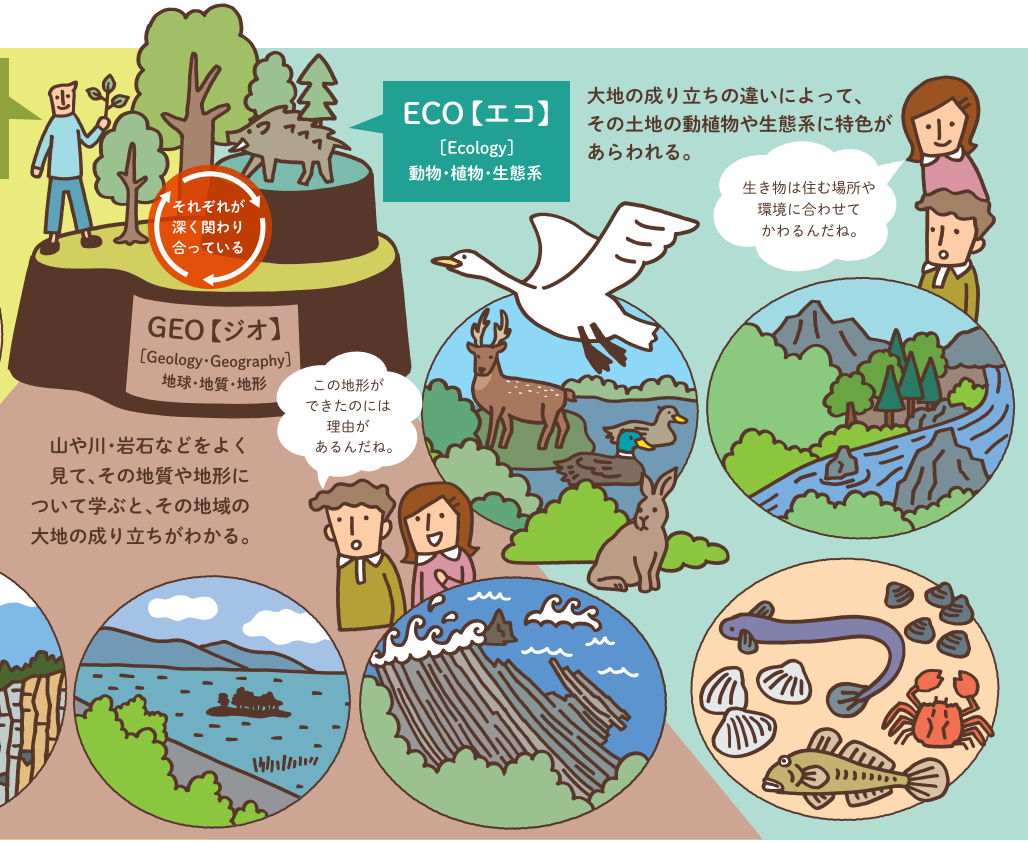

保全管理計画
ブランディング戦略
など
アクションプラン
４年間の事業計画
マスタープラン
目指す地域の姿
４年間の方向性

ジオパークの目的

ジオパークでは、私たちの暮らしている地域の「地質・地形（ジオ）」とそこに生きている「生態系（エコ）」、そしてそれらと人の「生活・歴史・文化・産業（ヒト）」との関わりを学び、楽しむことができます。

人々が、ジオ・エコ・ヒトのつながりを知り、学ぶことで、自分たちが暮らす地域に誇りを感じ、地球資源の持続的な利用や自然災害の影響軽減、気候変動の影響緩和への意識と理解を高め、持続可能な地域社会をつくることがジオパークの目的です。




それぞれが
深く関わり
合っている
GEO【ジオ】
[Geology・Geography]
地球・地質・地形
山や川・岩石などをよく
見て、その地質や地形に
ついて学ぶと、その地域の
大地の成り立ちがわかる。
この地形が
できたのには
理由が
あるんだね。
ECO【エコ】
[Ecology]
動物・植物・生態系
大地の成り立ちの違いによって、
その土地の動植物や生態系に特色が
あらわれる。
生き物は住む場所や
環境に合わせて
かわるんだね。

持続可能な開発目標（SDGs）

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2030（令和12）年を目標年に設定した、持続可能でより良い世界を目指すための17項目の国際目標と169項目のターゲットからなる、国際連合が示した行動指針です。
島根半島・宍道湖中海ジオパークでは、具体的な活動を通して、SDGsの達成に貢献していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT

SDGs の達成にも
貢献してるんですね！

©DLE

GOALS

4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

日御碕（ひのみさき）（出雲市）

出雲国風土記の自然と歴史に出合う大地

島根半島・宍道湖中海ジオパーク

Shimane Peninsula and Shinjiko Nakaumi Estuary Geopark

松江・出雲は、神々の物語と伝統文化が今なお息づく土地。

中国山地と日本海に囲まれ、宍道湖・中海という

全国に例を見ない環境が

独自の文化や歴史を育んでいます。

しじみ漁の風景や、名物出雲そばも大地があってこそのもの。

私たちの暮らしは大地の歴史の上に成り立っているのです。

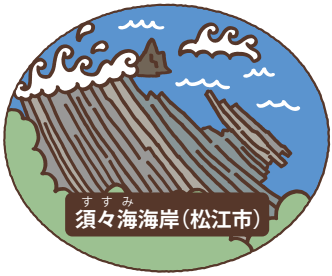
島根半島・宍道湖中海ジオ

島根半島・宍道湖中海ジオパーク（以下、「当地域」という）は島根県東部に位置しています。
松江市、出雲市の全域がジオパークのエリアに含まれ、面積は1,197.35㎢です。
エリアの中心に位置する宍道湖・中海はラムサール条約登録湿地の指定を受けているほか、島根半島の一部は大山隠岐国立公園に指定されており出雲国風土記に記された風光明媚で雄大な景色に加えその大地の上で育まれた自然、歴史、文化が息づく地域です。

パークの概要

嫁ヶ島（松江市）

十六島
食文化


須々海（すすみ）海岸（松江市）

松江ビジターセンター
美保神社
松江城
中海
宍道湖
松江市
日御碕ビジターセンター
出雲大社
出雲市

大地の成り立ち

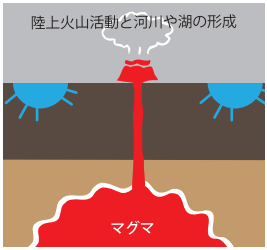
当地域の大地は、人類がまだ登場していない約2000万年前に西南日本が大陸から分離し、やがて日本海や日本列島が形成されるという大きな地殻変動が起こりました。
この中で、美しいリアス式海岸の島根半島や国内最大級の連結汽水湖の宍道湖・中海、豊かな生態系などが形成されました。

大陸の時代　約8500万年～5000万年前

このころ日本列島はユーラシア大陸の東端に位置しており、地球内部から上がって来たマグマが地下深い場所でゆっくり固まりました。そうした岩石が当ジオパークの南部地域で見られます。

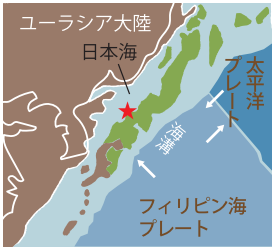
大陸分裂の時代　約4400万年～1700万年前

ユーラシア大陸の東縁の大地が割れ始め、裂けた大地の凹んだ場所に河川や湖ができ、今では日本で見られないビーバーやワニなどの生物がいました。陸上火山の活動も盛んでした。



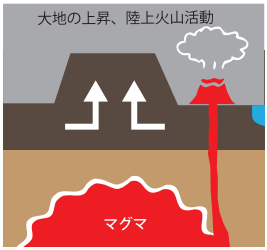
日本海拡大の時代　約1700万年～1500万年前

西南日本は時計回りに回転し始めたため、河川や湖だった場所に急激に海水が侵入し、深い海（日本海）が誕生しました。このころ活発だった海底火山活動の跡が島根半島に数多く見られます。



日本列島の時代　約1500万年～1000万年前

約1500万年前に、日本列島の回転と日本海の拡大が終わり、日本列島はほぼ今の位置になりました。この時代から、西南日本は南からのプレートによる力に押され始め、大地が上昇し、陸上火山活動が活発になりました。



汽水湖・平野の時代　約12000年～現在

約1万年前には、海面が今よりも約30～40mも低く、宍道湖・中海は陸地化していました。しかし、急激な温暖化によって、海面が急上昇し約8000～6000年前には、宍道湖や中海の部分は海になりました。約4000年前には、三瓶山の火山活動の噴出物が、大量の土砂となって川を流れ下り、出雲平野を拡大し、宍道湖・中海が姿を現しました。

世界に誇る島根半島・宍道

当地域は、4つの山塊が東西に雁行（がんこう）状に連なった島根半島とその南側に広がる出雲平野・宍道湖・中海の低地帯が描く景観、すなわち、島根半島の変動地形と低地帯の水平地形の地球史的コンビネーションが、国内はもとより世界でも類をみない価値を有します。

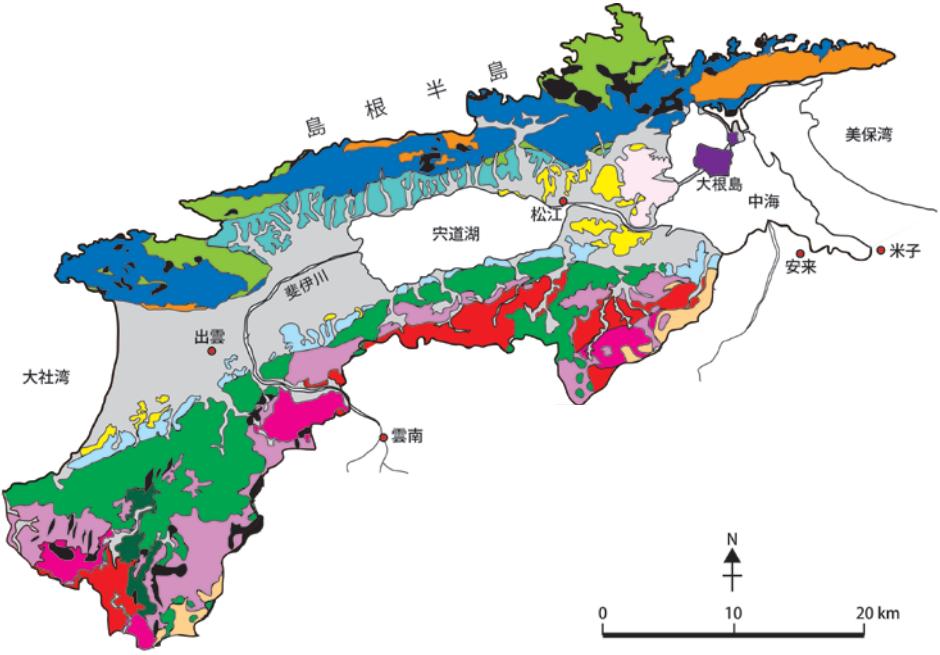
新第三紀初期の日本海の形成、およびその後のフィリピン海プレートの活動は、当地域の原点的要因として特異な地形形成へと導きました。東西40数キロに及ぶ高塩分から低塩分域にわたる宍道湖・中海は連結潟湖として国内最大の汽水湖を形成し、地球温暖化問題のような現行過程を解明する場所として学術性が高く、東西約67kmの島根半島は、日本海形成と関わった宍道褶曲帯として知られ、“グリーンタフ地域”の日本海南西端に位置する地域として地質学的に重要な場所を占めています。

このような絶妙な地殻変動によってできた大地が日本海交流の拠点として、また安定した穀物生産の大地となり古代出雲文化の発展の礎となったことが奈良時代の地誌である「出雲国風土記」に見てとれます。この大地は、人新世を生きる我々にとって現在の地球環境を考える多様な視点を提供してくれる地質・地形でもあります。

湖中海ジオパークの特徴

凡　例

地質時代	南部丘陵地	平野・中海宍道湖	島根半島
平野・中海・宍道湖（1 万年前 – 現在）	泥・砂・礫		
日本列島の時代（1500–1 万年前）	大根島玄武岩		
	和久羅山デイサイト		
	神西 / 斐川層		松江層
	布志名層		古江層
	大森層	牛切 / 高渋山層	
	貫入岩・深成岩体		
日本海拡大の時代（1700–1500 万年前）	川合・久利層	成相寺層	
	波多層		
大陸分裂の時代（2500–1700 万年前）	佐田層	古浦層	
大陸の時代（6000–3000 万年前）	火山岩類		
	花崗岩類		



島根半島・宍道湖中海ジオパーク地質・地形図

「新編島根県地質図編集委員会（1997）と沢田ほか（2013）を参考に作成」

自然遺産

～島根半島エリア～

島根半島の東西の両端部分は大山隠岐国立公園に指定されています。東部にある加賀潜戸には1000～1200万年前の海底火山の噴火による地層があり、そこには島根半島で最大の海食洞門があります。遊覧船に乗って洞門の内部を探勝することができます。

西部にある日御碕は、数センチの5～6角形の柱状節理が広がる隆起海岸で、およそ1500万年前の海底火山の溶岩ドーム跡と考えられています。ここに、出雲日御碕灯台や日御碕神社などがあります。島根半島では、日本列島の大陸分裂、日本海拡大、日本列島形成の地殻変動の歴史を見ることができます。

また、島根半島では、氷河期の植物が生き残り、海岸に近い場所で高山性の植物を見ることができます。

島根半島・宍道湖中海ジオパークには、多くの自然遺産があるぞ！

©DLE

加賀の潜戸（松江市）

日御碕の柱状節理（出雲市）

～出雲平野・宍道湖中海低地帯エリア～

島根半島があることで、形成された低地帯には、平野と日本最大の連結汽水湖である宍道湖・中海が広がり、カモ類、ガン類、ハクチョウ類などの渡り鳥が数多く渡来します。ラムサール条約の登録湿地になっているほか、ハクチョウ類などの日本列島における南限の渡来地ともなっています。また、島根半島でも多様な鳥類を観察することができます。

コハクチョウ

～南部丘陵山地エリア～

南部の丘陵山地には、大陸の時代から日本列島の時代までに形成された地質があり、たたら製鉄の原料となる良質な砂鉄が含まれた花崗岩、古来より石材として利用されている来待石、装飾品などに加工される花仙山のメノウなど、豊富な地質資源が人々の営みを支えました。

また、日本列島が形成される1500万年前ごろの浅い水辺で噴火した痕跡が残る立久恵峡があり、渓谷一帯は国の名勝天然記念物や県立自然公園に指定されています。また、岩壁には珍しい植物が多く生育しており、立久恵峡特殊植物群落として出雲市の天然記念物にもなっています。

立久恵峡（たちくえきょう）（出雲市）

文化遺産

～有形文化遺産～

当地域の湖沼沿岸部や山麓部には、弥生時代の358本の銅剣が出土した荒神谷遺跡、古墳時代に先駆けて作られた四隅突出型墳丘墓である西谷墳墓群など国史跡が多数存在し、縄文時代から弥生時代、古墳時代の遺跡が多数発見されています。

『古事記』『日本書紀』におけるスサノヲのヤマタノオロチ退治、オオクニヌシの国譲りの物語など出雲に関する記述は大変多く、古代に出雲が注目されていた地と考えられており、オオクニヌシを祀る出雲大社の本殿は国宝になっています。また、733年に完成した『出雲国風土記』がほぼ完本の形で残っていることで、様々な遺跡が風土記と付き合わされて、古代の社会の様子が分かって来ています。

神社、仏閣もその歴史は古く、『出雲国風土記』には出雲大社をはじめ多くの神社が掲載されおり、大社造りの神魂神社本殿は国宝に指定されています。また、594年の創建と伝えられる天台宗の古刹鰐淵寺、825年智元上人の開山と伝える華蔵寺などがあり、山岳仏教が盛んな地でした。そうした

寺々に残る寺宝である仏像の中には国指定重要文化財になっているものがあります。

江戸時代に松江藩の藩主によって築かれた文化も多く、江戸時代の茶室、菅田庵は国指定の重要文化財、史跡及び名勝となっており、松江城天守は国宝になっています。そうした文化は茶の湯、和菓子などにも広がっています。

よすみとっしゅつがたふんきゅうぼ
四隅突出型墳丘墓（出雲市）

～無形文化遺産～

島根県は神楽の盛んな県であり、出雲、石見、隠岐とそれぞれに特徴のある神楽が伝わっています。中でも、毎年9月24日、25日に、松江市にある佐太神社の御座替祭（ござがえさい）で奉納される神事芸能「佐陀神能」は、2011（平成23）年にユネスコの無形文化遺産条約「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載されました。能楽の影響が顕著な神楽で、神職によって舞われており、神事の一環として、観客に見せるのではなく神に奉納するのを第一としています。

この神楽をはじめ、地域毎に一年を通じてたくさんの祭りが伝承され、いくつかは無形文化財となっています。それらの祭りのほとんどが、氏子の代表によって統率され、伝承されています。中でも、島根半島の祭りは、戦前から戦後において、日本民俗学の開拓者と言われる柳田国男につながる宮本常一、瀬川清子、和歌森太郎などの民俗学者によって調査研究されました。それによって、この地域の特徴である氏子が主体的に厳格な潔斎などを含めて執り行う民俗神道の祭礼が、掘り起こされたのでした。地域住民による祭りが今も息づく地域です。

佐陀神能（松江市）

島根半島・宍道湖中海ジオパーク

目指す地域像

Vision for the future

当地域は、日本海を形成した大規模な地殻変動の「地球の記憶（地質遺産）」が残されている地域です。

日本海形成の過程のダイナミックな大地の営みの中で形成された島根半島が天然の防壁となり、中国山地との間に環日本海交流の拠点となる宍道湖・中海や肥沃な出雲平野を形作るとともに、豊富な鉱物資源にも恵まれてきたことで、独自の歴史文化や多様な生物を育んできました。

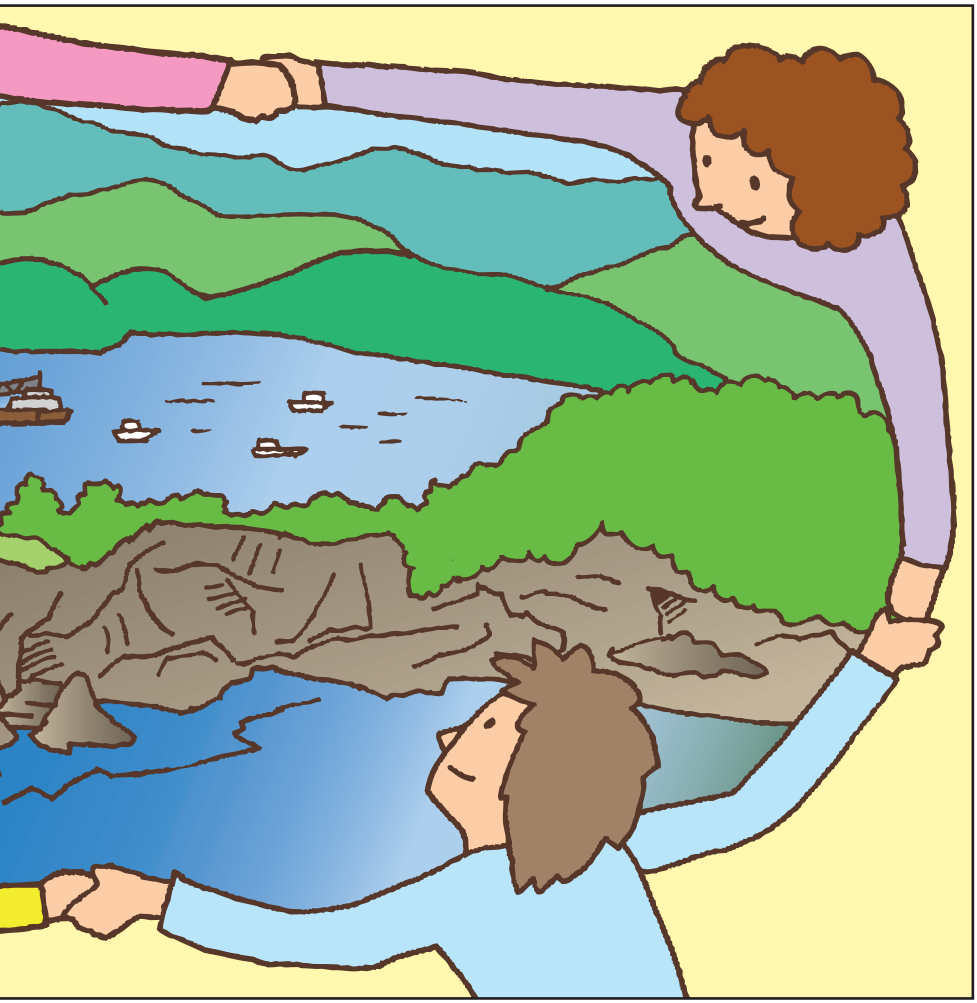
一方で、このダイナミックな大地の営みは、時に地震や地滑り、津波などの災害を引き起こします。

私たちに「恵み」と「災害」をもたらすこの大地の多面的な価値を理解し、持続可能な地域社会を目指して、3つの目指す地域像を掲げ取組を進めていきます。

地域像 1

“地球の貴重な遺産をまもり、

次世代に引き継ぐ地域”



地域像 2

“この地域に暮らす誰もが誇
づくりのために挑戦する人材

りと愛着を持ち、持続可能な地域を育てる地域”

地域像 3

“多くの来訪客に、ジオ・エコ観光振興につなげる地域”

・ヒトを伝えることで、地域振興や

立久恵峡（出雲市）

島根半島・宍道湖中海ジオパークの取り組みの方向性

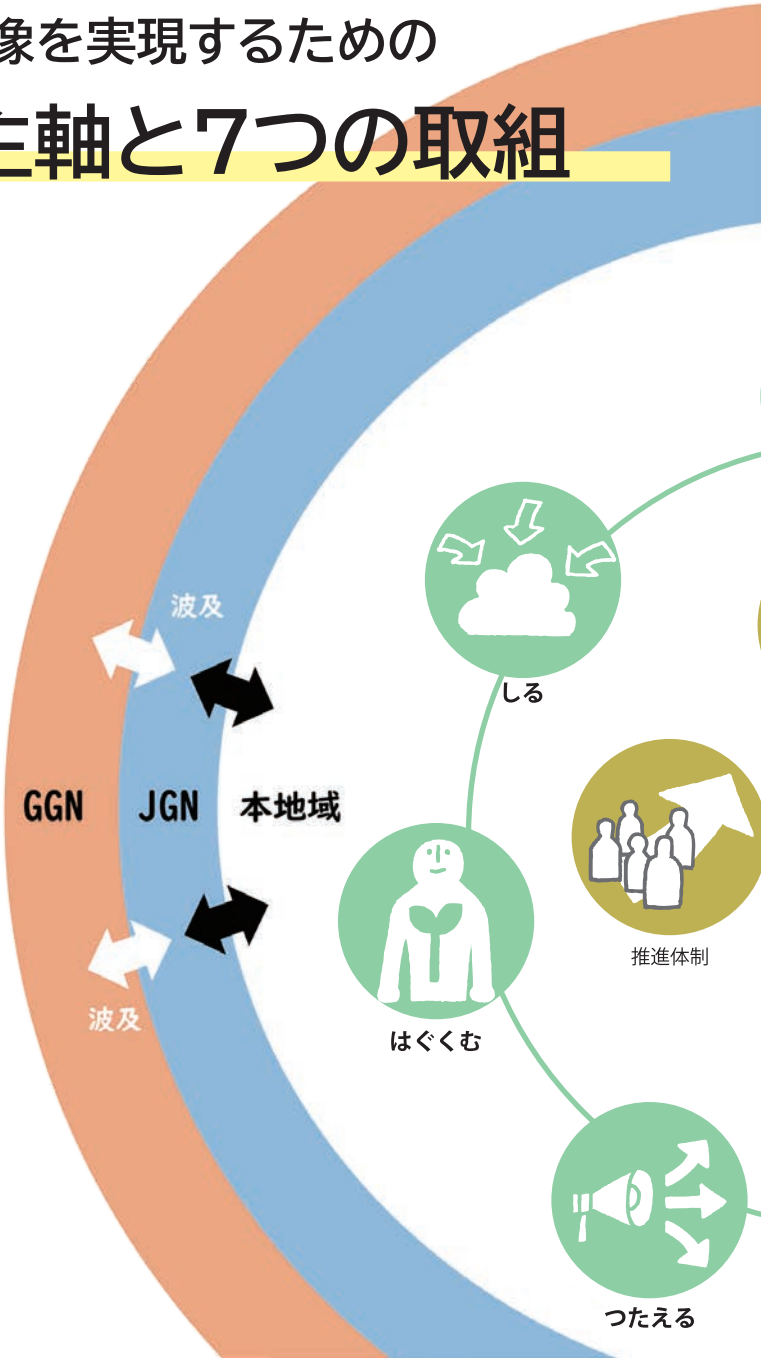
4つの主軸と7つの取組

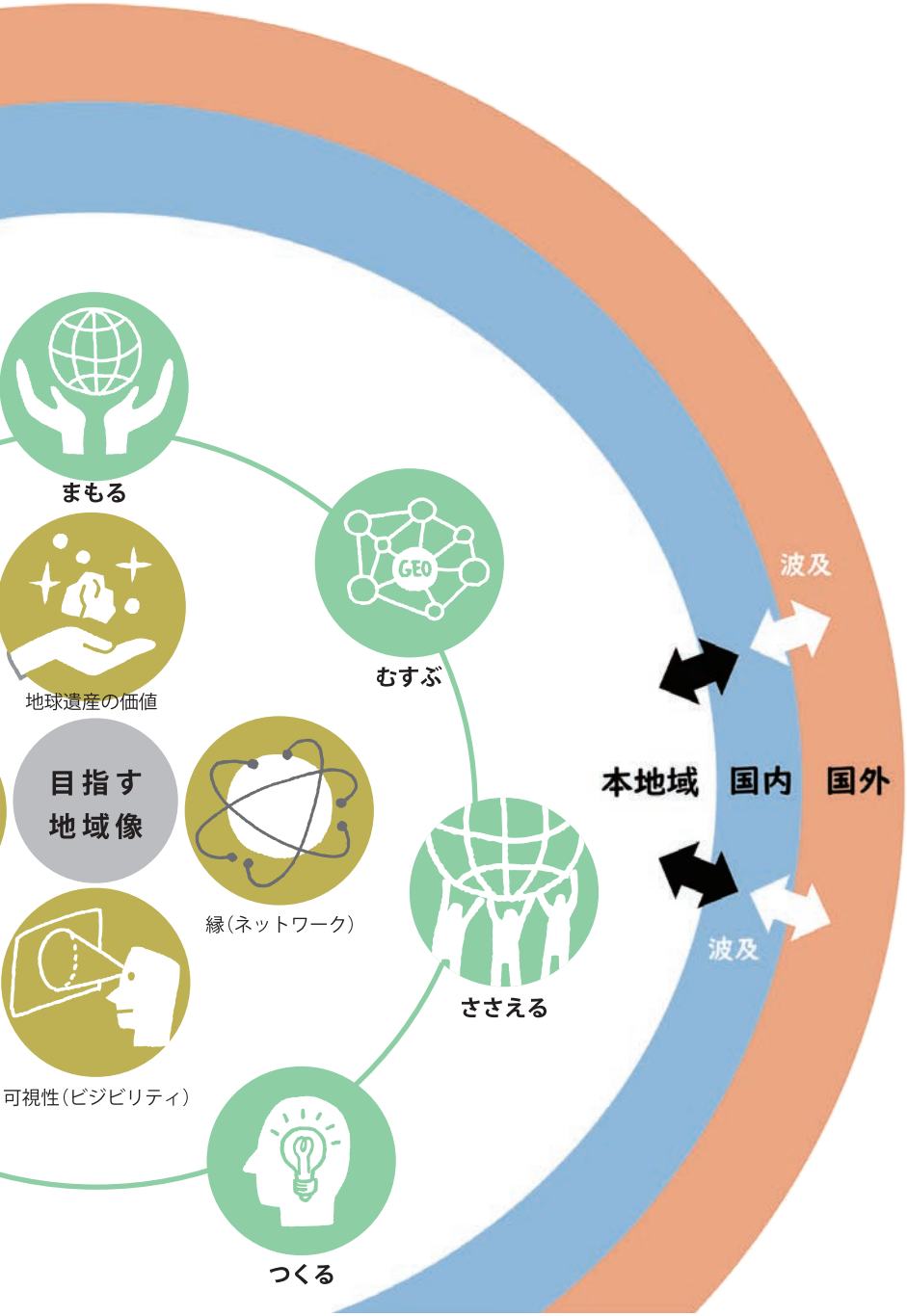
4 main pillars and 7 commitments

当地域の目指すべき地域像に必須な要素（4つの主軸）として「地球遺産の価値」「推進体制」「可視性（ビジビリティ）」「縁（ネットワーク活動）」を設定し、当地域の活動に取り組みます。

そして、「まもる」「しる」「はぐくむ」「つたえる」「つくる」「ささえる」「むすぶ」こと（7つの取組）を通じて、持続可能な地域の構築を目指し、日本国内、国外へと波及させ、ネットワークと交流の輪を広げていきます。

目指す地域像を実現するための
4つの主軸と7つの取組

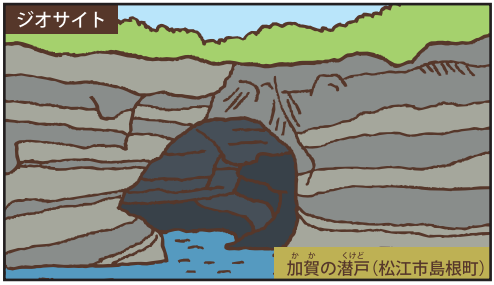


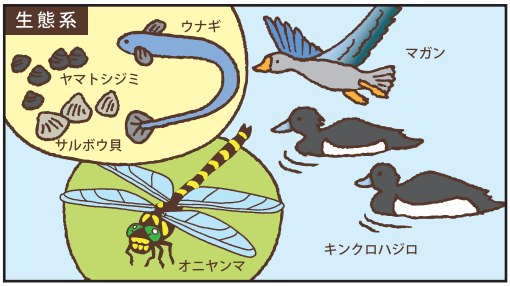

まもる
むすぶ
GEO
地球遺産の価値
目指す
地域像
縁（ネットワーク）
可視性（ビジビリティ）
ささえる
つくる
波及
本地域
国内
国外
波及

4つの主軸

地球遺産の価値

ユネスコ世界ジオパークでは、地域のあらゆる自然・文化遺産と関連した地質遺産を活用し、地球資源の持続的な利用などへの意識を高めるための取り組みを行います。当地域にも、学術的に価値のある地質遺産のほか、生態系、歴史、有形・無形文化財など他の地域にはない貴重な遺産があります。この地域の価値を物語る遺産であり、現在のこの地に暮らす人々だけでなく、次世代の人々も教育やジオツーリズムなどに活用できるよう守り伝えていく必要があります。





地球遺産の価値

推進体制

可視性（ビジビリティ）

縁（ネットワーク）

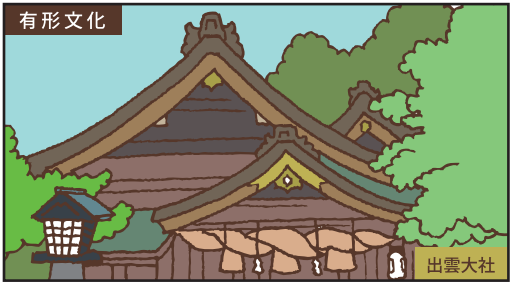
当地域の遺産は、次の4つに分類されます。

・ジオサイト
　地球科学的な価値を主とする遺産

・生態系
　生物学的な価値を主とする遺産

・有形文化
　文化、歴史的価値を主とする有形遺産

・無形文化
　伝統行事、伝承等を主とする無形遺産



4つの主軸
推進体制

地域の遺産を大切にしながら、持続可能な地域社会の実現にむけて、産官学民が協働して取り組みます。
推進体制については、地域の実情やジオパークを取り巻く社会情勢の変化等を踏まえ、ジオパークの適正な推進のために必要がある場合は、柔軟に見直しを行うこととします。

島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会

総会

幹事会

部会	学術・研究部会	保全・教育部会
所属団体	長浜神社 小泉八雲記念館 山陰万葉を歩く会、風土記を訪ねる会 島根県立八雲立つ風土記の丘 島根県立古代出雲歴史博物館 荒神谷博物館 一畑薬師 出雲大社 島根県埋蔵文化調査センター 島根県立三瓶自然館サヒメル 島根県地学会 国立大学法人島根大学	モニュメント・ミュージアム来待ストーン 出雲科学館 島根県立宍道湖自然館ゴビウス 独立行政法人国立高等専門学校機構松江工業高等専門学校 国立大学法人島根大学 宍道湖魚類研究会 加賀まるごと博物館 神社ガールズ研究会（社☆ガール） ウミネコ生態調査専門調査員 島根半島四十二浦巡り再発見研究会 八束の遺産を守る会 日本エコビレッジ研究会 出雲市コミュニティセンター長会 松江市公民館長会 環境省大山隠岐国立公園松江管理官事務所 国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所 中国電力株式会社島根支社
役割	ジオ環境や自然環境、生態系の研究と歴史・神話・文化に関すること	環境保全・防災、地域活動、ミュージアム（学術的展示施設等）の連携、小・中学校での教育・普及啓発

地球遺産の価値

推進体制

可視性（ビジビリティ）

縁（ネットワーク）

島根半島・宍道湖中海ジオパークは、産官学民の協働で活動しているんだ！

©DLE

事務局（松江市・出雲市・島根大学）

観光・広報部会

株式会社田部
漁業協同組合JFしまね
島根県農業協同組合
一般社団法人出雲観光協会
一般社団法人松江観光協会美保関町支部
一般社団法人松江観光協会
斐川町商工会
出雲商工会
まつえ北商工会
平田商工会議所
出雲商工会議所
松江商工会議所
株式会社島根日日新聞
出雲ケーブルビジョン株式会社
山陰ケーブルビジョン株式会社
株式会社山陰中央新報社
日本海テレビジョン放送株式会社
株式会社山陰放送
NHK松江放送局
山陰中央テレビジョン放送株式会社
一畑電気鉄道株式会社
西日本旅客鉄道株式会社米子支社山陰地域振興本部

旅行・交通、マスメディア・圏域メディア、商工・観光、農林水産業・食品

住民
企業・団体

普及・教育 →
← 参加

参加 ↓ ↑ 普及・教育

ガイド

養成、試験、スキルアップ →
← 住民ニーズのフィードバック

支援 →
← 連携、協力

研究者
専門家

4つの主軸
推進体制

総会

運営にかかる検討事項を総括し運営の方向性や事業計画、予算、事業の推進にかかるすべての事項について決定します。

幹事会

協議会の運営と事業計画について、具体的な内容を協議します。

事務局

ジオパークの事業計画に基づいて、各会議の運営、関係する団体・個人との連絡調整、決定事項の実施、活動へのサポート等を行います。
また、ジェンダーバランスの是正に向けた取組やDXを活用した会計管理、資料管理等を行うほか、外部資金の獲得や関係機関との連携協定締結に向けた調整等を行います。

専門部会

事業を推進するために、分野別の課題を整理・検討します。

1. 学術・研究部会
   主にジオ環境の研究、歴史・神話・文化に関することについて整理・検討します。

2. 観光・広報部会
   主にジオパークの対外的な情報発信、広報・マーケティング戦略について整理・検討します。

3. 保全・教育部会
   主にジオパークの教育、環境保全、防災に関する企画の作成について整理・検討します。

必要に応じて、地球科学、歴史、文化などの各分野における地域内外の専門家との連携を行うほか、ワーキンググループを設けます。

4つの主軸

可視性（ビジビリティ）

来訪者も地域住民もジオパークに関する情報が見つけられるよう、施設整備などのハード面での取組みと、それを活用したソフト面の取組みの連携を進め、可視性を高めます。

地球遺産の価値

推進体制

可視性（ビジビリティ）

縁（ネットワーク）

ハード整備：ビジターセンターの展示品の充実、解説看板・誘導標識の設置　等

ソフト整備：パンフレット・機関紙の発行、ホームページのリニューアル、アプリ開発、SNSの活用　等

4つの主軸

縁（ネットワーク）

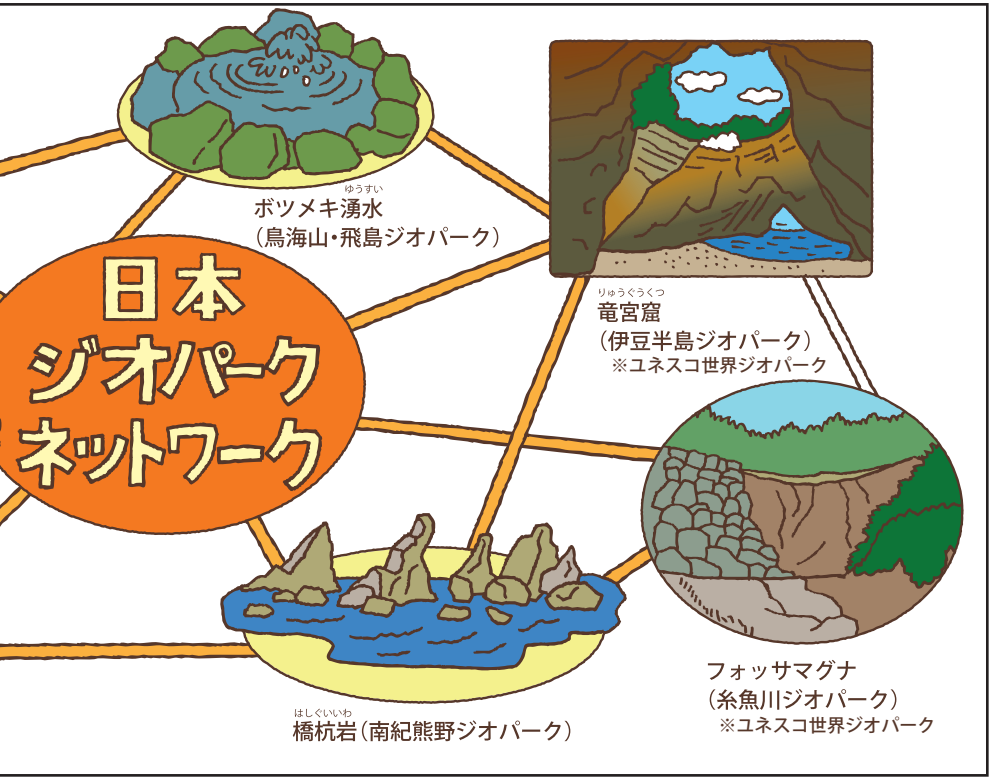
日本ジオパークネットワークの特徴として、ジオパーク同士の共助体制が挙げられます。全国研修会や全国大会などで多くの仲間と意見交換を行い、研鑽を重ねることで、国内のジオパークとのネットワークの充実強化を図ります。
また、エリア内の関係団体や専門家との連携を強化します。

地質遺産の国際的価値

推進体制

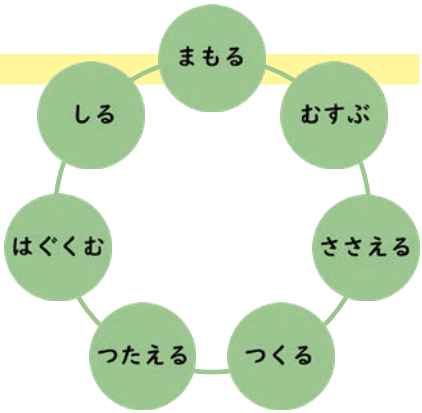
可視性（ビジビリティ）

縁（ネットワーク）



7つの取組

目指す地域像の実現のため、「まもる」「しる」「はぐくむ」「つたえる」「つくる」「ささえる」「むすぶ」取組を進めていきます。



1. まもる

・母なる地球の遺産を称え、保護する必要性を認識の上、地質遺産や自然遺産、文化遺産の保全・保護計画を策定し、一般に向けてその理解・浸透を図ります。
・地質遺産の継続的なモニタリングやメンテナンスを行うとともに、自然遺産や文化遺産の保護を行い、地域住民による保全活動を促進します。
・来待石の伝統工芸品などを将来の世代に引き継いでいくための地質物品の持続可能な収集や取引に向け、関係事業者との意見交換を行いながら、地質物品の埋蔵量や販売量の把握に取り組んでいきます。
あわせて、日本ジオパークネットワークと連携しながら、他ジオパークでの状況などについて調査・研究します。

2. しる

・エリア内の地質遺産や汽水域についての調査・研究を推進し、世界的な価値のある地質遺産を探求します。
・地域内に存在する地質遺産や自然遺産、文化遺産を再整理し、データベース化します。
・地域の活動の全体像を把握し、多くの人々がそれらの情報を享受できるようにします。
・気候変動、災害情報などを情報収集し、データベース化します。

3. はぐくむ

・あらゆる年代、性別、国籍、能力を対象とした教育・研究プログラムを実施し、地質遺産、自然遺産、文化遺産のつながりや気候変動、地質災害の正しいリスクを学べる機会を提供します。
・自然災害の原因や災害対策を含む被害の軽減方法について地域住民に情報提供することで、災害に対する知識や技術を持ち、効果的な対応を取れるようにします。

・地域の子どもたちや住民が、自立的に自らの地域の魅力を発見することで、ふるさとへの誇りと愛着を持ち、地域の遺産を守る取り組みにつながるよう支援します。
・「地球の記憶」を読み解き、レジリエンスな（さまざまな課題に柔軟に対応する）地域社会の形成に貢献するガイドを養成します。

4. つたえる

・対象に合わせた手段を用いて情報を発信し、国内外の多くの人々にジオパークの魅力を伝えます。
・気候変動や自然資源の持続的な利用等に関する情報の発信を通じて、社会が直面している重要課題の意識と理解の向上を図ります。

5. つくる

・市民や専門家と連携して、ジオ、エコ、ヒトのつながりを読み解き、新たなジオストーリーを構築します。
・地質遺産、自然遺産、文化遺産の持続可能な利用のために、来訪者と地域住民の要望を調整し、旅行事業者等と連携しながら、質の高いジオツーリズムを推進します。
・ブランディング戦略を策定し、ブランドイメージの統一を図ることで、ジオパークのブランド力を向上させます。

6. ささえる

・地質遺産、自然遺産、文化遺産の学術的価値を明らかにする調査、研究に対して助成金を交付します。
・地域や学校が行うジオサイトの保全活動等の地質遺産を守る取り組みを支援し、ボトムアップによる活動を推進します
・地域の伝統文化、スポーツイベント等の支援を通じて、地域が形成している文化の継承、再生産を推進します。

7. むすぶ

・行政、教育機関、企業、民間団体とのパートナーシップ協定の締結により、ジオパーク活動のより一層の推進を図ります。
・国内外のジオパーク間の交流を促進し、相互の理解を深めます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

島根半島・宍道湖中海ジオパークでは、SDGsの達成に貢献していきます

島根半島・宍道湖中海ジオパーク
これまで4年間の主な取組

2017（平成29）年度～2021（令和3）年度
島根半島・宍道湖中海ジオパーク構想推進行動計画に基づき、活動を行いました。

ジオサイト解説板や案内板等の整備

ジオサイト解説板、案内板等の整備については、67あるジオサイトのうち、主要なジオサイト、ジオツアーやジオ学習で訪れる場所などを中心に、46ヵ所で設置することを計画しており、そのうち26ヵ所に看板を設置しました。

拠点施設の整備・充実

2018（平成30）年5月に松江市島根町加賀のマリンプラザしまね2階に松江ビジターセンターを新設し、2019（平成31）年4月には、出雲市大社町日御碕において、日御碕観光案内所を移転し、日御碕ビジターセンターをリニューアルオープンしました。
また、JR松江駅前にある国際観光案内所では、ジオパークコーナーとしてパンフレットラックとモニターを設置したほか、出雲科学館では、ジオパークのコーナーを設置しました。

来訪者の動線検討

松江および日御碕ビジターセンターに誘導するため、幹線道路沿いの電柱に誘導看板を7ヵ所（松江市4ヵ所、出雲市3ヵ所）設置したほか、2019（平成31）年4月より、民間バス事業者などに協力してもらい、JR松江駅から松江ビジターセンターのあるマリンプラザしまねを終点とするバス路線「マリンプラザ線」の運行を開始しました。

ガイド・ガイド団体の連携

認定前からジオガイド養成講座「はじめの一歩コース」を設け、2019（平成31）年3月には、初めての認定試験を実施し、認定ジオガイドを認定しました。以降、毎年認定し、2022（令和4）年4月時点で55人となりました。
2020（令和2）年4月には認定ジオガイドによる「出雲国ジオガイドの会」が発足し、会員の約半数が他の観光ガイド団体などに所属しており、他のガイド団体との連携も図ることができる体制となっています。

地域の団体等への支援

団体等が自主的に行っている保全保護活動等について、持続可能なジオパーク活動をめざすため、補助金などの支援を行いました。

地域住民や観光客などへの情報発信

地域住民を対象にした取り組みとして、「市報や情報誌へのジオパーク記事の掲載」や、「地元テレビ局やショッピングセンターでのブース出展」などに取り組みました。
観光客を対象にした取り組みとしては、松江・出雲両市で年間2,000万人の観光入込客数があることから、当地を訪れる観光客を対象に本ジオパークの見どころやジオパークの理念等を情報発信することで、ネットワークの強化につなげました。
また、エリア外の住民や観光客に対しては、「YouTubeやFacebookなどのSNS」や「るるぶやまっぷるなどの観光情報の全国誌」を活用した情報発信に取り組みました。

学校におけるジオパーク学習の支援

協議会が教員と協力して学習補助資料を作成するとともに、学習で使用するバス借上料を補助するなど、子ども達へのジオパーク教育活動に取り組みました。

ジオパークネットワーク活動

2021（令和3）年10月に、日本ジオパーク全国大会を主催しました。オンライン開催ではありましたが、全国のジオパーク関係者による意見交換や交流の場を設けるとともに、日本ジオパークネットワーク中四国近畿ブロック各地域に分科会やジオツアーの企画・運営を依頼し、ブロック活動の推進にも寄与しました。

毎年、持ち回りで開催しているブロック研修会について、2020（令和2）年度は、本ジオパークがオンラインで主催し、ジオガイドの意見交換会や全国大会の打ち合わせを行いました。

また、隠岐ジオパークと山陰海岸ジオパークとの3ジオパークによる合同での活動を行っており、ガイド研修会の開催や地元テレビ放送局のイベントでのブース出展、ラジオ放送出演、山陰海岸ジオパーク主催のスタンプラリーへの参画などの取り組みを行いました。

©DLE

島根半島・宍道湖中海ジオパーク

2021（令和3）年度 日本ジ

総評

島根半島・宍道湖中海ジオパークでは、この4年間に、拠点施設の整備が進み情報発信力が強化された。また、大学、民間団体や公民館によるボトムアップでのジオパーク活動が展開されるようになり、地域コミュニティとの協働も進んだ。さらに、環境保全型のツアーを開発するなど持続可能なジオツーリズムも始まった。2021年には日本ジオパークネットワーク全国大会をオンラインで主催したことで、多様な主体によるジオパークに対する理解が大きく進んだことも評価できる。

その一方で、ジオパークの管理運営においては課題が残る。推進行動計画は認定以前に策定された基本計画をそのまま用いており、そこには保全管理計画、持続可能な開発戦略、ブランド戦略、パートナーシップ戦略などの視点が欠けている。今後は基本計画を見直し、管理運営を強化することで、ジオパーク活動が質的にさらに向上することを期待したい。

オパーク再認定審査指摘事項

優れている点

・「出雲国ジオガイドの会」が発足し、民間団体と連携したツアーやアクティビティ開発も行われるようになった。持続可能なジオツーリズムのためのプログラム開発に着手していることも評価できる。

・教育においては、大学や地域にある学習施設と連携した質の高い理科教育プログラムが開発されるとともに、ジオサイト等に行くための経済的支援が行われていることは評価できる。

・公民館によるジオパーク活動への積極的な参加は、持続可能な開発を実践する上で必要不可欠な地域コミュニティとの協働として結実しており、今後の展開に期待できる。

・海岸およびその生態系の保全を目的とする清掃活動は、幅広い年齢層に環境保全の重要性を理解させる手段として積極的に進められていることは評価できる。

・インターネットを利用した動画配信は、とくに若年層に対して有効な広報活動として評価できる。

緊急に着手ないし解決すべき課題（おおむね1年以内）

推進行動計画には、持続可能な開発、気候変動への対応、パートナーシップ戦略、ジェンダーの問題解決への視点が欠如している。また、この計画書は「構想」当時のままであるため、早急に改訂する必要がある。その際、今後の持続可能なジオツーリズムを推進するためのビジョンや方向性を示し、各地ですでに行われている事業をジオパークブランドとして統合していくことが望まれる。それと同時に、ジオパークのパートナーシップやブランド化に向けた島根半島・宍道湖中海ジオパークの考え方や戦略をまとめ、それに基づいた進捗状況を確認する仕組みを導入してほしい。

できるだけ早く解決すべき課題（2年以内）

1. すべての地質・地形サイトに共通する保全の理念に基づいて評価項目を分類し、その評価基準（ルーブリックなど）に基づいて達成状況を可視化するような保全計画を立案する必要がある。
2. 地質・地形サイトとそこへ至るツアールートにおける安全対策を明文化し、それを徹底するとともに、観光公害が発生している地域においては、レスポンシブルツーリズム（責任ある観光）を推進するための具体策をとる必要がある。
3. 地形・地質サイトやハザードマップを活用した防災、減災教育を進め、自然災害に対する意識向上を図る必要がある。

中長期的に解決すべき事項

1. 伝統工芸品「出雲石灯ろう」の原料となる来待石の資源管理、技術継承、販売に関して、モニュメント・ミュージアム来待ストーン関係者や石材業者らと意見交換し、ジオパークにふさわしいあり方を検討してほしい。
2. 訪問者がジオパークに入ったことや主要施設に向かっていることなどを強く認識させるため、景観に配慮したうえで、視認性が高くかつ内容の正確な誘導看板や説明看板の効果的な設置について検討する必要がある。
3. 拠点施設の出雲科学館で実施される出雲市の理科教育プログラムの仕組みを、松江市の教育プログラムとしても利用できるよう検討してほしい。
4. ジオパーク関連の出版物や発行物にはロゴマークを使用してもらうように関係者とコミュニケーションをとる必要がある。
5. 神話、古代史関連サイトでの活動は十分に行われているものの、それ以外のサイトにおける自然遺産や文化遺産とジオパークとの結びつきを強化する必要がある。

©DLE

ジオパークの理念

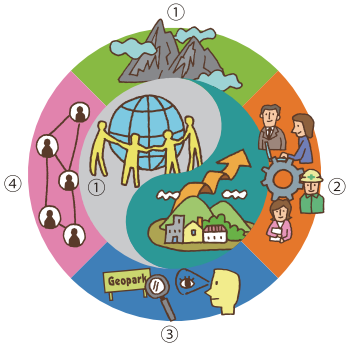
ユネスコ環境・地球科学部門の支援により2004（平成16）年に世界ジオパークネットワーク（GGN）が設立され、2015（平成27）年の第38回ユネスコ総会においてユネスコの正式プログラムとなったジオパークは、ユネスコ世界ジオパークとして、特に自然資源、地質ハザード（災害）、気候変動、教育、科学、文化、女性、持続可能な開発、地域と土着の知識、地質保全の10の課題に焦点を当て活動しています。

中心軸

地域社会を持続させるための
未来に残すべき地球遺産

中心軸を構成する２つの要素

①地球遺産の享受
②地域社会の持続



４つの重要事項

①国際的な価値の地質遺産
②管理運営
③可視性
④ネットワーキング

10の課題

①自然資源
②地質ハザード（災害）
③気候変動
④教育
⑤科学
⑥文化
⑦女性
⑧持続可能な開発
⑨地域と土着の知識
⑩地質保全

ジオパークの理念のイメージ図

島根半島・宍道湖中海ジオパーク

発行日：令和４(2022) 年11月1日
発行者：島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会

[松江市役所　ジオパーク推進室]
〒690-8540　島根県松江市末次町86番地
TEL：0852-55-5399　FAX：0852-55-5070
E-mail：kunibiki-geopark@city.matsue.lg.jp

[出雲市役所　政策企画課ジオパーク係]
〒693-8530　島根県出雲市今市町70番地
TEL：0853-21-6612　FAX：0853-21-6752
E-mail：seisaku@city.izumo.shimane.jp

島根半島・宍道湖中海ジオパーク

日本ジオパークネットワーク